

時間割を工夫する

- 学年によって各教科の時数の違いがあることや協力学級*での学習もあること等を踏まえて、時間割の設定を工夫してみましょう。

学年による各教科の配当時間数の違いを踏まえ、特別支援学級で学習する時間と協力学級での交流及び共同学習の時間を決め、時間割にも明記しましょう。実態に応じて、各教科あるいは学習活動に合わせたグループの編成も必要となります。複数の学年の子供が、できるだけ同じ教科で学習する時間割を組むためにも、教務主任や協力学級の先生方に協力してもらいましょう。

また、子供が、何を（教科等）、どこで（学級）、誰から（担当教員）教わる授業なのかが見て分かる時間割を掲示することで、見通しをもって過ごすことができます。

*本稿では、特別支援学級の児童生徒が交流及び共同学習を行っている通常の学級を「協力学級」と称する。

複式学級における指導を参考にする

- 授業展開において「直接指導」と「間接指導」を使い分けます。
- 子供の実態に応じて「わたり」を工夫します。

特別支援学級では、一人の教員が複数学年を指導することが多くなります。これまでの複式学級における指導が参考になります。複式学級において、学年別指導や類似内容指導を行う場合には、それぞれの学年の子供に異なる（類似した）内容を指導するため、一方の学年に指導している間は、他の学年の子供は自主的に自分たちの学習を進めていく必要があります。このような指導では、次のような「直接指導」や「間接指導」が行われます。

- 直接指導…複式形態の授業において、一方の学年の児童生徒が教師から直接指導を受ける学習指導場面を指します。
- 間接指導…複式形態の授業において、教師が一方の学年の児童生徒を直接指導している間に、他の学年の児童生徒が、教師の指導を離れ、自分たちで課題を解決するために個人または集団で学習活動を進める学習指導場面を指します。

複式学級の学習指導では、直接指導の時間的な制約や指導過程の構成上の位置付けから、教師主導型の授業ではなく、子供の主体的な学習活動を目指した授業が展開されるように配慮します。そのために、間接指導前の直接指導では、課題把握や課題解決にかかわる学習技能、学習方法や手順をつかむための指導を十分に行う必要があります。間接指導は、子供のみで学習が進められるように指示や示唆を与えた上で行われる指導です。直接指導の付属的なものとしてのドリル的な学習ではなく、主体的に学習を進められるように指導方法を工夫します。

学年別指導や類似内容指導では、同じ時間に2つの学年を対象にして異なる教材を指導します。この場合、直接指導と間接指導を組み合わせながら、教師が一方の学年から他方の学年へ交互に移動して直接指導に当たります。このように学年の間をわたり歩く指導形態（教師の動き）を「わたり」と呼んでいます。子供が集中して取り組める時間や必要な支援内容等に応じて、「わたり」を工夫した授業展開が求められます。また、子供の実態によっては、集中しやすい・学習しやすい座席の配置や教室環境も必要となります。

【文献】岩手県立総合教育センター（2014）：複式学級の特質を生かした学習指導の進め方ガイド。

よく一緒に読まれているQ

Q6 「協力学級の担任とは、どのように情報共有や連携をしていけばよいのですか？」

Q16 「教室の整理、机の配置、机上の整理等、子供が集中しやすい環境のづくり方が分かりません。」

Q17 「各授業で、1時間の具体的なねらいや課題の難易度をうまく設定できません。」